

令和5年5月29日(月)開催 市長記者会見 発言趣旨

< 開催時間 > 10:00~

< 会場 > 庁議室(市役所本館3階)

< 会見案件 > 部局マネジメント方針について
その他 行政のDXについて
ゴールデンウィークの観光入込について

< 出席者 > 市長、副市長、総務部長、総合政策課長、文書法制課長、DX推進室長、
おもてなし観光推進課長

< 発表内容 >

【福井市長】

新型コロナウイルスが5類に移行し、既に多くの地区で区民体育大会が再開されるなど、日常生活に戻りつつあることをうれしく思います。まだまだ油断はできませんが、私も、久々にマスクを外し、記者会見に臨みたいと思います。

それでは、令和4年度部局マネジメント方針の成果報告及び令和5年度部局マネジメント方針を取りまとめましたので、報告いたします。

部局マネジメント方針は、年度当初に、私と各部局長が政策協議を行い、部局の重点項目や課題への対応方針、具体的な取組内容を定めるもので、年度終了後に、その達成度を評価・公表しています。評価にあたっては、達成度に応じて、成果のあったものから順に、「快晴」「晴れ」「薄曇り」「くもり」「雨」の5つに分類しております。

まず、令和4年度の結果についてですが、行動目標185項目のうち、達成できたものは、127項目、達成度は68.6%であり、令和3年度と比較しますと、3.3ポイント上回りました。達成できなかった項目については、要因の分析結果を踏まえたうえで、本年度以降の取組に活かしてまいります。

令和5年度の部局マネジメント方針については、将来都市像「みんなが輝く 全国に誇れる ふくい」の実現のため、令和6年春の北陸新幹線福井開業対策をはじめ、DXの推進やゼロカーボンシティの実現などに関する施策を盛り込み、189項目の行動目標を設定いたしました。

主な内容として、まず、いよいよ来年春に迫った北陸新幹線福井開業に向け、新幹線開業効果を最大限に高めるため、国内外に戦略的に情報発信を行っていくとともに、官民一体となったおもてなしの機運醸成を図ってまいります。首都圏や新幹線沿線都市等において出向宣伝やイベント等を実施するとともに、観光ポータルサイトやインスタグラム等を活用し、福井の魅力を積極的に発信することで、誘客や交流の促進につなげてまいります。また、市民や事業所、団体等が一体となり、オール福井によるおもてなしのさらなる機運醸成を図るとともに、おもてなしの拠点となるふくい観光案内所の開設準備を行ってまいります。

次に、DXの推進においては、北陸新幹線福井開業を見据え、市民や観光客が最適な経路や移動手段を組み合わせることで移動できるよう、ふくい MaaSシステムの本格導入に向けて取り組んでまいります。また、マイナンバーカードを使用したコンビニ交付サービスの利用を促進し、市民の利便性向上を図るほか、自治会活動のデジタル化に向けた支援を行い、情報共有の円滑化や業務の効率化により自治会の負担軽減につなげてまいります。さらに、行政手続きのオンライン化が進む中で、職員のDXに対する意識改革を加速させるため、従来の決裁業務を見直し、電子決裁

率の向上に向けて、着実に取り組んでまいります。

次に、ゼロカーボンシティへの取組として、まちなかを走る「すまいるバス」の電気バス導入費用を支援し、地域交通のグリーン化に寄与してまいります。また、新ごみ処理施設の令和8年度稼働に向けて、昨年度に行った実施設計を基に、施設の建設工事に着手します。

そのほか、児童福祉法等の改正により、市町村での設置が努力義務となった、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへの相談支援を一体的に行う「子ども家庭センター」の設置に向け、体制整備を行ってまいります。また、市民の健康づくりを推進するため第3次福井市健康増進計画を策定いたします。

以上、主なものについて説明いたしました。このマネジメント方針で定めた目標の達成に向け、全ての部局が一丸となって、全力で取り組んでまいります。なお、部局マネジメント方針は、市のホームページに掲載するほか、行政チャンネル「ふくチャンネル」において、6月16日から7月31日まで、各部長が令和5年度の主な取組概要や意気込みなどをお伝えしますので、そちらもご覧ください。

次に、その他として、部局マネジメントにもありました行政のDXについてです。本市では、令和4年3月に「福井市DX推進計画」を策定し、「暮らし」、「産業」、「行政」の各分野で、DXに関する取り組みを推進しているところです。このうち、「行政のDX」に関しては、市役所自身が、積極的にDXを推進していくため、業務の在り方をデジタル化に合わせて見直すこととしており、行政手続きのオンライン化やマイナンバーカードの普及促進など16項目について、鋭意取り組んでいるところです。ICTの浸透によって、社会をより良い方向へ変化させることが求められている中、庁内においても事務の効率化を徹底するため、6月より、電子決裁の取組を強化することとしました。昨年度の電子決裁率は18%でしたが、今年度中に75%、そして来年度には100%と、DX推進計画に掲げた目標達成のさきがけとなるよう、着実に取り組んでまいります。

DXの推進は、今後の市民生活や行政運営に必要なものでありますので、職員一人ひとりの業務改革意識の向上を図り、全庁一丸となってしっかりと進めてまいります。

次に、今年のゴールデンウィーク中の観光入込などについてご報告します。今年のゴールデンウィークは、概ね天候に恵まれたこと、また新型コロナの行動制限が緩和されたことにより、県内外から大変多くの方に市内観光地に足を運んでいただきました。コロナ前には及ばないものの、一乗谷朝倉氏遺跡周辺では、約12万人の入込があり、昨年と比較しても約2万人、率にして20%の増加となりました。養浩館庭園や観光物産館 福福館の入込も昨年を上回りました。また、新幹線開業を見据えてリニューアルした本市の観光ポータルサイト「福いろ」では、本年3月のページ閲覧数が過去最多となる28万を超え、4月以降も高い水準を維持しています。さらに、4月下旬には、ツイッターで、「#福井県」が連日トレンド入りするという、うれしい状況が続くなど、いよいよ来年春に迫った北陸新幹線開業に向けて、福井に注目が集まりつつあることを感じています。新幹線開業とその先の北陸DC（DESTINATIONキャンペーン）に向けて、本市を来訪先として選んでいただけるよう、ますます観光素材の磨き上げと、情報発信に取り組むとともに、繰り返しお越しいただけるよう、受け入れ態勢の整備とおもてなし向上に全力を挙げてまいります。

報道機関のみならず、市内観光地の情報発信にご協力をいただきますようお願いいたします。

私からは以上です。

< 質疑応答 >

【広報課長】

それではただ今説明がありました案件につきまして質疑応答を行います。

ご質問される際にはマイクをお渡ししますので、社名、名前の後にご質問をお願いいたします。

【記者】

行政のDXの改定について、18%から75%は数字がかなり高いように思いますが、どのような点を改善すると75%、さらに来年度100%達成できるとお考えでしょうか。

【福井市長】

目標の数値をいくつにするかは難しいですが、今年は6月から取組を強化し始めることもありますので、どう加味するかとよいか、或いは、4年度の時の電子決済の対象件数は2万8870件で、うち電子決済件数は5245件であった過去の状況、また、保存年限5年、10年のものまで対象を広げようということなどを踏まえて、今申し上げた目標にしました。

【記者】

部局マネジメント方針の観光のところで、ハピリンの来訪者数など目標達成状況が一部未達成のところが昨年度あったと思います。今年度は新幹線開業前の最後の年になるということで、まず市民に向けては、どんな福井市になっていくか、どういうところに期待して欲しいかというところはいかがでしょうか。

【福井市長】

以前、平成30年の国体の時にも、いろいろと来訪者が増えるということで、来ていただいた方に対するおもてなしのあり方などの運動に取り組みました。今回も当然、新幹線を利用して来訪者数が増えることが予想されるので、恐竜を背景に写真を撮っている方に、シャッター切りますよと声をかけるなど、ちょっとしたことがこれからは非常に大切になってくると思っています。地元の方々と一緒に地道な運動をしっかりと進めていきたいと思っています。

【記者】

昨年度の福井市の観光の状況で市長としてはどのように評価されていますか。

【福井市長】

昨年はコロナの問題もあり、もう少し伸びていたらなという思いの中で、なかなか足踏み状態のようなところがあったので、その分今年にかける思いは強くなっています。

【記者】

もう少し伸びていったらという点も踏まえて、開業に向けた最後の年である今年に、変えていかなきゃいけないと思う部分がありますか。

【福井市長】

やはり従来からやってきたおもてなしのあり方です。こういう運動をしっかりと、子どもからお年寄りまで、幅広い世代がそれぞれの立場で着実にやっていくことが必要だと考えています。

【記者】

DXのうちAIの活用について、越前市がChatGPTというAIのサービスを試験的に導入したというニュースがありましたが、福井市ではどのようにお考えでしょうか。

【福井市長】

課題を整理しながらしっかりと対応していかなければならないと思いますが、まだ入口の段階での状況がはっきりしない部分もあるので、国の状況や県、他の市町村の動きを見ながら進めていきたいと思っています。

【記者】

中心市街地のにぎわい創出の項目のところ、前年度、目標未達成となっているんですが、中身を見ると例えば、まちなかの通行量は2回の調査のうちコロナ禍がおさまってきた2回目は結構数字が増えています。自分でも土日のイベント時に歩いていると、かなりにぎわっていると体感しています。その中で今年度の目標が、個人的にはもっと高くてもよかったかなと思ったのですが、コロナが明けてかなり回復基調にある中で、中心市街地のにぎわいについて市長の今年度の期待感と課題の2点、改めて教えてください。

【福井市長】

やはり今言っていたように、駅前に集まってきてくださる人の数というのは、従来のコロナ前をだんだんと超えていくように見受けられます。とはいえ、再開発事業等がまだ完成していませんし、駅のプリズムも工事に入ること、利用できる場所が限られている感じがあります。順調に早く完成に結びついてくれたらと思っているところです。

【記者】

部局マネジメント方針の成果報告の数字の部分について、昨年度の68.6%という達成率についての受けとめをお願いいたします。

【福井市長】

部長等と話をしていると、コロナによる数字の変動が、どこまでが認められるべきか、なかなか判断が難しいと感じています。この数字はいいとか、この数字はちょっと難しいねという話がなかなか進まなかったのが事実です。

そういう中で、一昨年よりは少し伸びてくれたというところで、何とかある程度の見通しを持ちながら、仕事ができたと思っています。

【記者】

今、市長がおっしゃっていただいたように、このような中どれくらいの回復になるのか読みづらかった中で、昨年度の数値目標も非常に設定自体が難しかったかなと思います。

そういった傾向で今年度どこまで回復してくれるのかというところが、新幹線1年前というところで非常に課題となってくるのかなと思います。

今市街地の人出だけでいうと、イベントも非常ににぎわいを見せており、新幹線開業1年前という中、都市のにぎわいが少しずつ戻ってきたかなと思います。しかし一方で、5類移行したとはいえ、繁華街や夜の時間帯を中心にまだまだ人出が戻らないように、コロナの影響が回復しきっていないところが多々あると思います。市として今後支援していかなければいけないところ、新幹線開業に向かってもっと頑張っていたいただきたいところについて、市長の考えを伺えればと思います。

【福井市長】

制度的には、再開発を含めて支援補助金を出すといった支援策は、ある程度形はできていると思いますので、それを十分に活用していただくということが大事だなと思っています。

今、駅前から西の方へ歩みを進めていくと、浜町がリニューアルをしたところも増えてきているように見受けられますので、そういうふうにし、それぞれの店舗のこれからのあり方というものを考えていただいて、そこに対してうまく我々が持っている制度を活用してやっていただくということが非常に重要ななと思っています。

【記者】

新年度の部局マネジメント方針の関係で、先ほど市長からも冒頭で全体像についてお話をいただき、この方針に関しては基本的に部局長との話し合いの中で決めていくという話もあったと思うのですが、部局から上がってくる目標に対して市長としてこの部分はもう少し強化したほうがいいなど、市長の考えを強く示されたところがありましたら教えていただけますでしょうか。

【福井市長】

今お話のあるように、そういう協議をしながら、ここへまとめたのですが、強く示した点を聞かれると難しいです。もう少

しこの数字が上がらないかというふうな投げかけをして、各部局で議論をしてもらい、ここまでなら数値を上げられるというようなやりとりをしています。ですので、目標値が急激に伸びている形にはならず、難しいなと感じています。ただ、今申し上げたようなやりとりをさせていただいて、今年度の方針がこのようにまとまったという状況です。

【記者】

その中で、特徴が出せたかなというような部分がありましたら、お願いします。

【市長】

やはり今回コロナが一段落したような形ではあるものの、どこまで収まるかという見込みが、まだはっきりとついてるわけではないので、数値をどのくらいに持って来ればいいのかという点は、部局でも悩んでいると思います。

コロナの回復を見込み、できるだけ高い数値を設定したいのですが、コロナの状況がなかなか明確にならず難しい点があるなど、やりとりをさせていただきました。

【広報課長】

他にございませんか。それではご質問ないようですので、これで記者会見を終了させていただきます。ありがとうございました。